

- 6 本時の目標 インターネットのトラブルを疑似体験することを通して、インターネット上に他人の個人情報を許可なく載せることは、他人を傷つけてしまうことに気付き、相手の気持ちを考えたインターネットの利用方法について実践策をもつことができる。
- 7 本時の展開

児童	A児	B児	C児	D児
<p>個に応じた本時の目標</p>	<p>他人の個人情報を勝手に使用したり、インターネット上に載せたりすることは、その人に損害を与えてしまうことを理解し、目の前の楽しみに惑わされずインターネットを正しく利用できるようにする。</p>	<p>他人の個人情報を勝手に使用したり、インターネット上に載せたりすることは、その人に損害を与えてしまうことを理解し、インターネットを利用する際にもよいことと悪いことを正しく判断してから利用できるようにする。</p>	<p>他人の個人情報を勝手に使用したりインターネット上に載せたりすることは、その人に損害を与えてしまうことを理解し、インターネット上に書き込みをするときには、周りの大人に確かめてから利用できるようにする。</p>	<p>他人の個人情報を勝手に使用したりインターネット上に載せたりすることは、その人に損害を与えてしまうことを理解し、インターネットを利用する際には相手の気持ちを考えながら利用できるようにする。</p>
<p>主な学習活動と見届ける視点 (◇)</p>		<p>個に応じた指導援助</p>		
<p>つかむ5分</p> <p>1 インターネットの便利などところについて話し合い、オンラインゲームなどで簡単にゲームができることを知る。 ◇インターネットの楽しさや便利さを感じ、仲間とともに安全に楽しく利用するためにどうしたらよいかという課題に向かうことができるようにする。</p>	<p>・インターネットでは、好きなアニメを観ることができるから、とても便利だよ。ゲームは楽しそうだからみんなとどんどん使いたいな。</p>	<p>・ぼくの好きなゲームがいつでもできるからとても楽しいよ。 ・楽しいゲームをどんどんやりたいな。安全に使うためにはどうしたらいいかな。</p>	<p>・アニメも観ることができるし、ゲームもできるから便利だよ。 ・いろいろなボタンを押して、たくさんゲームがしたいな。</p>	<p>・分からないことを調べるのにとっても便利だよ。 ・楽しいゲームをみんなとたくさんしてみたいな。仲間と安全に使いたいな。</p>
<p>みんなが楽しく、安全にインターネットを使うには、どうしたらよいか。</p>				
<p>見いだす15分</p> <p>2 インターネット上で勝手に他人の個人情報を使用した場合のようなことが起こるのかを疑似体験する。 【確かにする場】</p> <p>3 楽しいことをしたいからといって、他人の個人情報を勝手に書き込んでしまうのはいけないことだということに気付き、インターネットを適切に使うためにはどうしたらよいか話し合い、ルール作りをする。</p> <p>【人権教育の観点】</p> <p>ゲームを楽しくやりたいからといって、むやみに他人の個人情報を使用するのはいけないということに気付き、相手の気持ちを考えてインターネットを利用できるようにする。(行動力)</p> <p><そのための手立て></p> <p>・個人情報を入力してしまったときに悪用されてしまうことを疑似体験することで相手の悲しみに共感し、安全にインターネットを利用しようとする意欲を高める。</p>	<p>・インターネットに他人の個人情報を載せてしまったときに、第三者に悪用され、載せられた人が傷ついてしまうということを疑似体験し、気持ちを交流する。</p> <p>ゲームをしたいからといって、友達の情報を勝手に載せてしまったから、知らない人に友達の情報が分かってしまったよ。迷惑がかかってしまった。大変なことだな。</p> <p>◇実際の体験を通して、友達の情報を勝手に書き込んではいけないことを理解しているか。</p> <p>ゲームをやるときに、友達の名前を勝手に使わないよ。ぼくだけじゃなくて相手に迷惑がかかってしまうからだよ。</p> <p>・「さっきは楽しいからやりたいと言っていたけれど、今はどう。」と尋ね、気持ちの変化に気付くことができるようにする。</p>	<p>・インターネットに他人の個人情報を載せてしまったときに、第三者に悪用され、載せられた人が傷ついてしまうということを疑似体験し、自分の気持ちや相手の気持ちを想像し、発表する。</p> <p>ゲームをたくさんしたいからといって、どうなるかよく考えないと、大変なことになるな。友達がお金をたくさん払わなければいけなくなってしまふよ。よく考えてから使わないよ。</p> <p>◇目の前の楽しいことに惑わされて、友達が傷つくことをしてはいけないということを理解しているか。</p> <p>友達に言わずに名前を教ええないよ。自分がされたら困るよ。書く前にきちんと考えるよ。</p> <p>・「今までは楽しければやってしまうよ。」と言っていたけれど、今はどう。」と尋ね、気持ちの変化に気付くことができるようにする。</p>	<p>・インターネットに他人の個人情報を載せてしまったときに、第三者に悪用され、載せられた人が傷ついてしまうということを疑似体験し、どのような気持ちになったかを教師に話す。</p> <p>分からないまま何でも書き込んでしまうと大変なことになってしまうな。</p> <p>◇楽しいことに惑わされて、考えずに書き込んではいけないことを理解しているか。</p> <p>楽しいからといって勝手に使うと、相手が傷つくことがあるよ。周りの人に聞いてから、インターネットを使おう。</p> <p>・「これからはどうしたらよいか。」と尋ね、具体的な方途を話すことができるようにする。</p>	<p>・インターネットに他人の個人情報を載せてしまったときに、第三者に悪用され、載せられた人が傷ついてしまうということを疑似体験し、自分や他人の気持ちを交流する。</p> <p>楽しそうだからと思っても、どんどん大変なことになって、友達にも迷惑がかかってしまうのだな。危ないな。</p> <p>◇自分がされたら嫌だということを理解し、相手の気持ちに立って考えようとしているか。</p> <p>友達の名前を勝手に使ったり、住んでいるところを勝手に教えたりすると、相手が困ってしまうから、勝手に載せないよ。</p> <p>・「3部の約束はどうしたらよいか。」と尋ね、具体的な約束を作ることができるようにする。</p>
<p><3部 インターネットを使うときのルール></p> <p>・友達が悲しい思いをするから、友達の名前や住所を勝手に教ええないよ。 ・自分のことだけ考えてやると、傷つく人がいるから相手の気持ちを考えてインターネットをするよ。 ・安全かどうか確かめてからやるよ。分からないときは、聞いてからやるよ。</p>				
<p>できる10分</p> <p>4 インターネットを、正しく利用するためのクイズに答え、実際にあった被害について教師の話聞く。</p> <p>・プレゼントが当たるホームページを見付けたとき、友達の名前を載せなくてはならないときにも、教えたらだめだよ。友達の気持ちを考えたなら、やってはいけないことだよ。</p> <p>【評価基準】</p> <p>◇他人の個人情報を勝手に載せることは、相手を傷つけてしまうことに気付き、正しいインターネットの利用方法について理由とともに理解している。(表情・行動・発言内容)</p>	<p>友達が嫌な思いをしてしまうから、インターネットを使うときは、友達の名前を勝手に書かないよ。 自分のパスワードも大切にしないといけないよ。教えたらだめだよ。</p> <p>◇名前を書かない、IDを勝手に書かないなど、正しいインターネットの利用の仕方を実践しようとしているか。</p> <p>・「どうして友達の名前を書き込んではいけないのかな。」と尋ねたり、話した内容を価値付けたりすることで、相手の立場を尊重した行動をしようという気持ちを高められるようにする。</p>	<p>友達に言わずに名前を教えたらだめだよ。自分がされたら困るよ。書く前にきちんと考えるよ。</p> <p>◇利用する際には、相手のことを考えて、すぐに書き込まないことを実践しようとしているか。</p> <p>・「自分が楽しい気持ちだけでやってしまうとどうなるのかな。」と問いかけ、楽しくてやってしまったことが、取返しのつかないことになってしまうことを理解できるようにする。</p>	<p>書き込んでよいことか悪いことか分からないときは、先生に聞くよ。楽しそうでもだめなときはやめておくよ。</p> <p>◇自分で勝手に判断せずに、まず周りの大人によいことかそうでないか聞いてから使おうとしているか。</p> <p>・「友達の情報を入力してください」と書いてあっても書かないなど、相手が傷つくことにつながる言葉を具体的に伝える。</p>	<p>よく考えてから書き込まないとだめだよ。友達のパスワードを使ってもだめだよ。迷惑がかかるよ。</p> <p>◇相手の気持ちを考えてからネットを利用しようとしているか。</p> <p>・「楽しいゲームの続きはしたくないの。」などと尋ね、自分の気持ちをコントロールすることの大切さを理解することができるようにする。</p>

解 説

1. インターネットによる人権侵害を取り上げるに当たって

高度情報化にともない、インターネットがより身近な存在になりました。特に、携帯電話、スマートフォンの普及は手軽に情報を受け取ったり、発信したりできる手段として生活に欠かせないものとなりました。

しかし、匿名性、拡散性の高さが要因となり、インターネット上での誹謗中傷、個人情報の掲載等、人権侵害の事例が多数発生しています。また、利用者の拡大が、小中学生の人間関係上のトラブルにもつながっています。

そのような中、利用の仕方だけでなく、利用のルール、マナーを学ぶことが重要になります。さらに、画面の向こう側にいる相手の気持ちを尊重し、どのように利用すればいいか考えていく必要があります。

2. 本実践の指導上のポイント

インターネット利用のルールやマナーについては、家庭や学校等で身につけたことも多いと考えられます。しかし、知識として身につけているだけでは、場合によっては、善悪の判断ができず、相手を傷つけてしまう可能性があります。

本実践では、個人情報を不正に使用する場面について疑似体験します。この体験により、インターネットの危険性だけでなく、誰でも加害者になる可能性があること実感をもって理解できます。それだけでなく、自分の気持ちと相手の気持ちを考えることで、ルールやマナーの大切さを再確認できました。

インターネットの人権侵害はその性質から取り返しのつかない被害が起きる可能性があります。児童の実態に即して、体験的な学びができたことが大変価値のあると言えるでしょう。